

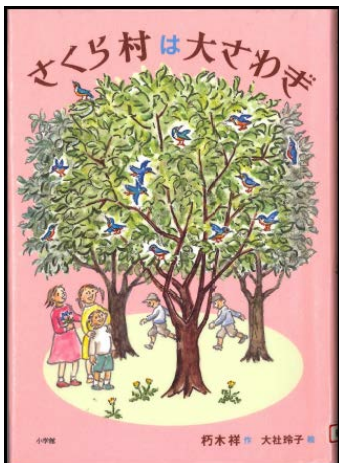
よんでネット*

春号

発行口茅ヶ崎市立図書館／協力口茅ヶ崎図書館子どもの本の会

「さくら村は大さわぎ」

朽木祥 作 大社玲子 絵



小学館〔9137〕

ハナちゃんが住んでいるさくら村には、さくらの木がいっぱい。子どもが生まれると、庭にさくらの木を植えるやくそくがあるからです。さくらがまんかいの四月、たいへんなことが…。おにいちゃんの自転車のかごにあたヘルメットの中に、鳥が巣を作ってしまったのです! どうしよう? さくら村では楽しい事件がっぎっぎあこるんですよ。

「野ねずみきょうだいの草花あそび」

← 初夏から秋まで
秋から春まで →

相澤悦子 さく 長谷川直子 え

福音館書店〔E・絵本のコーナー〕



野原にすむ野ねずみきょうだいは、草花であそぶのがだいすき。春は、タンポポのようせいやカラスノエンドウの飛行機を作ります。秋には、さくらの落ち葉でスズメやサンタクロースも作ります。小さな草花をさわっていると、草花や季節のこともわかるんだって。さあ、みんなも野原であそんでみよう!
(※実際の作り方の写真つきです)

「火星は...」 スザンヌ・スレード 文 千葉茂樹 訳 三河内岳 監修

火星は...太陽から4番目の惑星。地球のおとなりの星。
この本には高性能カメラでとった火星の写真がいっぱい。
火星の上では、砂あらし、隕石の衝突、地震など、いろいろな
ことがおきている。風が作った砂のシワシワは、まるで
鳥の羽のよう。編み目のような岩の模様。火星に
降り立、自分の目で見たくなるね。



あすなろ書房〔44ス〕

「ロサリンドの庭」 エルサ・ベスコフ 作 菱木晃子 訳 植垣歩子 絵



あすなろ書房〔949バ〕

とっぜん壁のなかからあらわれた、ふぎな女の子・ロサリンド。
ロサリンドが壁紙に水をあげると、壁の花は風にそよぎ、
青い小鳥たちも さえずりだします。病気がちの男の子、
ラーシュ・エリックは、いっしょに遊ぶうちに どんどん元気にな
りました。ある時ロサリンドは言いました。「きょうは、
あたしの庭へ いっしょにこない? ほんものの花がさいてるのよ。」

「ヴオドニークの水の館」 チェコのむかしばなし

まきあつこ 文 降矢なな 絵

むかし、まずい家のむすめが、おなかをすかせて
川辺で泣いていました。川に住むぶきみな水辺の主
ヴオドニークは、そのむすめをつかまえます。むすめは、水の館で
働くことになりました。広間には、小さなつぼがたくさん
あり、中はけいてのぞいてはいけないと言われます。
でも、ある日 そのふたをあけてしまい...



BL出版〔E・絵本のコーナー〕